

観点別学習状況の評価の方法について

新学習指導要領においても、学習評価については、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と、これらを総括的に捉える「評定」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施されるものとされている。

ここでは国立教育政策研究所教育課程研究センター発行「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校）」の体育分野に示されている例示（202頁）にもとづいて「観点別学習状況の評価」の方法を考えてみる。

■観点別学習状況の評価の手順（下図参照）

- 観点別評価は①のようにA B Cの3段階で行われる。
- この3段階を常識的に5段階に分類すると②のように考えることができる。①②は3段階評価と5段階評価の一般的な相関の関係である。
- 5段階にそれぞれ該当する形でA B C評価を組み立ててみると③のように示すことができる。「十分満足できる」状況の特に程度の高いもの（すなわち5に該当するレベル）をA A、「努力を要する」状況の一層努力を要するレベル（すなわち1に該当するレベル）をC Cとする。
- さらにAとB，BとCのボーダーも決して明確ではなく境界線上の判断で「評価誤差」が生じることがを勘案し，それぞれの境界にボーダースペースを設け，④のようにそれぞれをA B，B Cで表す。このように分化されることで生徒の本来の学習過程の状況や成長をより正確に捉えることができるであろう。
- 分化された評価をそれぞれ数値化したものが⑤である。便宜的にA Bを「3.5」，B Cを「2.5」とする。
- ここで個々の単元を総合した平均値を出す。これが判断値となり観点別評価3段階の評価に総括する際の目安が⑥である。ここで示すそれぞれの段階の判断値はあくまで例示であり，どのような区切りにするかは学校において検討し定めることができる。（例A評価を3.8以上とする・・・等）
- 参考までに，観点別評価を5段階の評価に総括する際の目安が⑦である。これは観点別学習状況の評価を評定に総括する際の問題であり，ここからは教科単独ではなく学校全体のコンセンサスの中で行われる問題である。

①	②	③	④	⑤		⑥	判断値	⑦
A 十分満足 できる	5	A A	A A	5.0	判断 値	A	4.5	5
B おおむね 満足 できる	4	A	A	4.0			3.5	4
			A B	3.5	3.5	B	2.5	3
	3	B	B	3.0				
			B C	2.5	2.5	C	1.5	2
	2	C	C	2.0				
C 努力を 要する	1	C C	C C	1.0				1

*判断値については各学校あるいは教科で判断する。

■観点の「重み付け」について

観点に「重み付け」をして評定に総括することは指導者の判断に委ねられる。しかし、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点は相互に深い関連を有しており、また、資質・能力の三つの柱をバランスよく実現するという視点からも、知識・理解や技能に偏重していた一昔前の評価に比べ、ことさら特定の観点への「重み付け」の必然性は低くなる。

一方で指導の重点を何らかの形で評価に反映させたいと考えるとき、観点の「重み付け」の発想がある。指導者が明確な根拠をもち、責任をもって説明ができるものであれば、「重み付け」は必ずしも否定されるものではない。

■観点別評価評定総括換算表テンプレートの説明

こちらで提供するテンプレートは、観点別学習状況の評価を評定に総括する手続きをフォーマット化したものです。

この表は学期ごとの総括を予想して作成し、実技の分野を3単元保健の分野を1単元と想定しています。

名簿は40名分です。必要に応じて増減できます。

各単元は観点に合わせて3つの項目を示しました。

波線で区切られた左側（評価欄）は「AA, A, AB, B, BC, C, CC」の記入欄で、右側（数値欄）はそれぞれに該当する数値を打ち込みます。（注：数値は先生方が取り決めたものを入力）

数値が打ち込まれると「観点別学習状況評価」の各観点の欄に数値（平均値）が表示されます。

この数値が観点別学習状況の「A・B・C」評価の根拠として活用できます。

評定の「換算値」は以下の計算式で算出されます。

$$(\text{＜知識・技能＞} \times \text{【観点比重値】} + \text{＜思考・判断・表現＞} \times \text{【観点比重値】} + \text{＜主体的に学習に取り組む態度＞} \times \text{【観点比重値】}) \div \text{【観点比重値の合計】}$$

観点比重を設定する場合は計算式内の各観点の【観点比重値】の数値および除算する【観点比重値の合計】を変更してください。

最後の「評定」の欄は、5段階の評価を下す部分です。換算値が5段階のどの段階に達するかは、各学校各教科での取り決めに準じて行います。

ここに打ち込まれた数値は名前右横の「評定」の欄に連結しており、自動的に表記されます。